



平成 31 年 2 月 20 日(木) 国道 7 号にハイブリット防雪柵設置 編

昨年から国道 7 号沿い三種町鯉川地区にある「北緯 40 度の駐車帯」周辺の防雪柵更新工事が行われていました。のしろ市民まちづくりフォーラム開催のこの日午前中、その北端に幅 3m のハイブリット防雪柵が試験施工されました。

この防雪柵は灰色に塗装しています。日光や風雨にさらされると木材は灰色に退色してしまうため、それを想定したものです。走行している方には木材かどうかは判別がつかず、周辺とは少し形が異なりますので工法が違うのかな程度にしか気づかないかもしれませんが、支柱は鋼材、木材は秋田スギを用い、忍び返しと誘導板には直径 10cm の半割り丸太を、防雪板には幅 12cm の板を使用しています。

本州の日本風景街道事業は平成 19 年からスタートしましたが、それに先立ち、北海道では北海道開発局が中心となって 2 年間の試行を行い、平成 17 年から「シーニックバイウェイ北海道」として、地域や企業を巻き込んで個性的で活力ある地域づくりや景観づくり、魅力ある観光空間づくりを目指した取り組みが行われています。

ハイブリット防雪柵は、この北海道シーニックバイウェイ開始にともなって北海道林産試験場がカラマツ材の有効利用を目的に開発したものです*。美しい景観づくりに木材を活用することによって、地域産業の振興に貢献できると考えられたからです。道道小樽石狩線には、防雪効果や耐久性の実験・検証を経て平成 18 年に施工された 84m にわたるハイブリット防雪柵を見ることができます。

一方、木高研の敷地には佐々木先生が提案、設置したタイプの異なるハイブリット防雪柵が立っており、平成 11 年から 20 年を経過した鋼材・木材の状態を道路管理者の方々に確認していただくことができました。のしろ白神ネットワークの「木の香る道づくり」では先進事例も学びながら、これからも民学官が連携して進めていければと考えています。

文： 渡辺 千明

* 詳細は林産試だより 2006 年 2 月号 pp.1-6 参照



秋田市方向から国道 7 号を北上すると鯉川地区にある北緯 40° 表示のある駐車スペースの北端に設置されています(上・中)。そばで見ると木材が使われていることがわかります(下)。



石狩市郊外に設置されている防雪柵の木材は全て半割り丸太を使用しています。